



神宮にご親謁あそばされる今上陛下

やくわえ

第四十五号

今期運動方針

会長 阿部 明德

昨秋、即位の礼・大嘗祭が斎行され、さらに本年二月、立太子の礼が斎行され、皇位の無窮が示されました。この上ないご慶事と、会員こそつて祝意を捧げまつるところであります。

本会は昨年、創立四十周年を迎えました。伝統を重んじ、祭祀の振興と道義の昂揚を図り、以て大御代の弥栄を記念し、併せて世界の平和に寄与することは、創立以来、不変の大綱であります。

一、しかるに今日の情勢はなお、占領軍の誤解から生まれた「神道指令」に盲従する歴史観が、政府当局、報道機関、言論・教育界に悪影響を与えたままである。先年行った御大典奉祝運動に添って、宮中三殿の祭祀が、皇室・国家の重儀として位置づけられるよう世論を啓発する。さらにこの問題とも深く関連する神宮式年遷宮の信義の啓蒙に努め、国民総参宮を呼びかける。

二、昨年、御大典の妨害を計った左翼過激派により、東京都神社庁管内数社が罹災した。これは、一社殿、一個人を対象とした犯行ではなく、民俗の精神伝統に対するテロ行為である。一層協力的な連係防犯体勢を整え、実行対策を講じるとともに、罹災神社の御復興事業を支援するため、神職の立場を生かす奉仕活動にあたる。

三、環境保護が国際的課題とされる中で、神と自然と人とを常に交流し合う関係でとらえる神道思想が、自然と共存する環境保全の英知として機能している点を協調し、「みどりの日」の行事など、関連運動の機会に、これを青少年に教示することが肝要である。

四、国際化時代を迎えて、外国人に対し日本文化を説明することの重要性が求められている。明治以来、人権平等、移民の自由を主張した歴史を民俗の誇りとし、世界大同の思想に向い、いよいよ道統を護持して外国人との公正な友好を期する。

五、各自の研鑽と会活動への積極参加を切望する。

以上

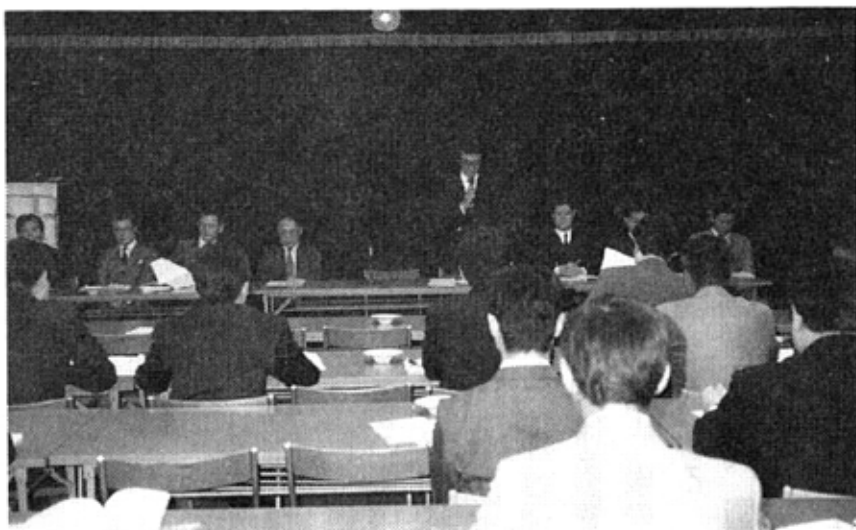
東京都神道青年会委員 (順不同)

会長	阿部 明德(台東)	副会長	大石 定道(品川)	議長	山口 直英(品川)	監事	鈴木 昭樹(中央)	総務部	篠村 章一(荒川)	庶務	森山 晴男(葛飾)	會計	石倉 義康(足立)	教養部	松本 仁(品川)	小侯 章(中野)	河野 元俊(台東)	清水 祥彦(千代田)	堀江 久教(目黒)	品川 宗久(大田)	水谷 敦憲(渋谷)	石川 正典(新宿)	田村 昌義(千代田)	大久保 直倫(新宿)	田中 寛之(江東)	森田 一(品川)	神保 恵一(江東)	中島 敬史(板橋)	細野 政和(中野)	宮崎 久嗣(北多摩)	丸山 聡一(江東)	豊田 賢二(板橋)	大塚 正行(千代田)
	佐々木 修(港)	八木 光重(北)	神谷 裕昭(北多摩)	野口 次郎(千代田)	山田 邦夫(港)	渉外部	今井 達(墨田)	齋藤 明比古(杉並)	松本 仁(品川)	本橋 宣彦(杉並)	齋藤 博明(杉並)	唐松 義行(千代田)	野村 浩史(渋谷)	篠村 直嗣(板橋)	廣報部	小侯 文弘(杉並)	唐松 孝文(足立)	岩崎 知樹(文京)	奥野 雅司(練馬)	亀井 素木(江戸川)	佐久間 則勝(豊島)	椎名 香都夫(墨田)	渋谷 耕次(葛飾)	瀬川 昌之(台東)	滝 雅人(港)	中川 文隆(中央)	服部 匡記(中央)	渡辺 寛(杉並)	事業部	齋藤 博明(杉並)	富岡 茂永(江東)	渡辺 陽一郎(足立)	
	鏡 智明(葛飾)	齋藤 成彰(新宿)	河野 通具(台東)	天海 尉之(江東)	久野 和穂(千代田)	小西 啓文(千代田)	菅原 直幸(江東)	中神 孝之(杉並)	老岐 博嗣(杉並)	野沢 秀典(世田谷)	荒掘 文孝(世田谷)	新井 亮宣(世田谷)	相談役	小泉 朋昭(板橋)	川合 玄紘(大田)	山内 温(豊島)	内田 英雄(練馬)	大村 忠(大田)	八木 敏夫(北)	竹内 一郎(足立)	村岡 賢治(新宿)	山崎 寛(千代田)	押見 守康(文京)	小侯 宗昭(杉並)	伊藤 孝夫(新宿)	香取 邦彦(江東)	中田 憲文(中野)	小野 貴嗣(台東)	北川 憲史(大田)	長谷川 康夫(世田谷)	◎は部長		

平成三年度 定時総会開催

四月十六日、神社庁に於いて平成三年度東京都神道青年会定時総会が開催された。開催に先立ち博報堂理事の清水良衛氏による「西欧文明の成立に果たした中東文明の役割(イスラムの姿)」と題した講演が行われ、イスラム社会の再認識と共に国際社会の一員である日本人としての自覚を説かれた。引き続き次第に則り大石副会長の開会の辞、神殿拝礼、国家斉唱、敬神生活の綱領唱和、鈴木前会長の「みなさんの協力により、『アツ』という間の二年間でした。」との挨拶があり、平成二年度事業報告、決算報告、監査報告が行われ一同異議なく満場一致にて承認された。ここで鈴木前会長より動議が発表せられ神青協拠出金の値上げ等による支出増額の為現行の四千円会費から五千円会費への会費値上げ案が上程されたがこれも一同異議なく賛成多数により可決された。この後新執行部議長に交代し阿部会長の「伝統ある青年会を会員一同の一致協力により活発化し、御遷宮事業をはじめ各活動に積極的に

参加をしよう」と力強く挨拶された。引き続き今期活動方針案、事業計画案、新会費を盛り込んだ予算案が満場一致にて承認、神青協出向者の紹介、続いて来賓を代表して大鳥居先輩より祝辞をいただき、美わしき山河合唱、万歳三唱、小泉副会長の閉会の辞で盛大なるうちに総会を終了し、阿部船長率いる新たな船出の吉き日となった。



平成三年度事業計画

教養部

- 一、教養講座の開催 三、四回
- 二、禊錬成講習会の開催 七月十日〜十一日予定
- 三、雅楽研修会の開催 八月二十一日〜二十三日予定

教化部

- 一、第六十一回神宮遷宮の啓蒙活動
 - ①神青協「遷宮のこころ」を守り伝える委員会と連携した活動
 - ②神宮式年遷宮奉賛会との連携活動
- 二、青少年の教化活動
東京都氏子青年協議会への参加協力
- 三、継続活動
 - ①神棚奉斎運動
 - ②国旗掲揚推進運動

広報部

- 一、会員名簿の作成
- 二、「やくわえ」の発行

渉外部

- 一、諸組織・諸団体との連絡等による交流の緊密・強化
- 二、会員に対する情報提供の充実
- 三、神青協出向者との連絡及びその事業推進と内容の会員への伝達

事業部

- 一、家族懇親会 八月中旬
- 二、健康診断 十月上旬
- 三、忘年会 十一月下旬
- 四、その他懇親をはかる事業

役員紹介

会長 阿部 明德

台東区・下谷神社宮司
昭和二十九年四月二十六日生れ。



会計、広報・教養部長を歴任し、会長に。神青協地区選出理事を兼任。昨年は神青協四十周年実行委員会事務局長としても八面六臂の活躍をした。卓越した行動力と指導力で会員の先頭に立つ。

副会長 大石 定道

品川区・戸越八幡神社禰宜
昭和二十八年七月二十二日生れ。



庶務・事業部長・総務部長を経て

副会長に。また前期は神青協理事も兼任した。神青会の要職を長年務めた経験と温厚篤実な気質により会の運営をスムーズに進める。

副会長 小泉 勝俊

品川区・品川神社禰宜
昭和三十年八月十七日生れ。



前期事務部長。天真爛漫な明るさに定評がある。会議の雰囲気が高く苦しくなった時、副会長の「難しく考えるのはよそう」の一声で、皆が気楽に議事を進める事が出来る。神青会に必要不可欠な明るさを振りまいている逸材である。

議長 山口 直英

品川区・氷川神社禰宜
昭和二十七年五月二十日生れ。

庶務・事業・総務部長、副会長を歴任。持ち前の優しさと思いやり



で、後輩達に色々アドバイスを与えている。その人気は相変わらず絶大。豊富な経験と優しさで議事を進めていく。

総務部長 篠 直嗣

板橋区・氷川神社禰宜
昭和三十二年一月五日生れ。



会計・渉外部長を経て総務部長に。また、全国の方でも神青協遷宮委員・指名理事・副会長を務め上げ、忙しい社務と幼稚園運営の合間を縫って東奔西走の大活躍。今期も、神青協の将来を考へる委員会委員長という大役を兼任。この広い顔を生かしながら東京都神青益々の発展に力を尽くす。

教養部長 松本 仁

品川区・旗岡八幡神社禰宜

昭和三十年三月二十九日生れ。



神青協会長指名理事を兼任。物静かな外見とは異なり、内面には大きなバイタリティーを秘めている。おっとりかまえた物腰に好感がもたれている。

教化部長 神保 恵一

江東区・猿江神社宮司
昭和三十二年十二月二十九日生れ。



おとなしい性格を隠す為か立派な鬚をたくわえており、その容貌から「鐘馗さま」と呼ばれ、親しまれている。夫人の緑さんとは國學院大學神道学科の同級生であり、あたかも兄弟のように顔が相似している。

渉外部長 今井 達



墨田区・白鬚神社権禰宜
昭和三十一年十一月二十二日生れ。

前期教化部長。前々期より神青協

遷宮委員。今期は神青協神宮式年
遷宮のころを守り伝える委員会
委員長を兼任。神社新報社記者を
本業としながら、大事な頭脳とし
て青年会活動に参画。ドラクエー
IV全てをガイドブックなしでやり
とげた根気よさは賞賛に価する。

事業部長 齊藤 博明



杉並区・天祖神社禰宜
昭和三十一年十月六日生れ。

前期会計。今期神青協事業委員会
委員を兼任。七年四ヶ月間靖國神
社に奉職の後現職に。以前はテニ
ス焼けの美少年であったが、近頃

庶務 森山 晴男



葛飾・半田稲荷神社禰宜
昭和二十七年十月七日生れ。

はゴルフに熱中。飛距離の出る人
と一緒にラウンドした後で「自分
は飛ばない」と悩んでいる。事業
部員を二期務めていた為事業部の
活動に精通している。どのような
新機軸を打ち出していくか、その
手腕が楽しみ。

教養部長・庶務・広報部長を歴任。

真面目さは今期役員の中でも随一。
弱かったお酒も六年に及ぶ役員生
活のお蔭で人並み以上の強さになっ
た。前々期庶務として抜群の働き
をしたことによる再登板で、更な
る活躍が期待されている。

庶務 纈 誠



世田谷区・六所神社禰宜

昭和三十一年四月十六日生れ。
趣味は音楽鑑賞・アマチュア無線
ドライブ・ラジオコン等。二十四畳
の広さの自室に三十七インチのテ
レビやカウンターバーを設置する
新しいタイプの神職。趣味と現代
感覚を生かした活躍が期待される。

庶務 本橋 宣彦



杉並区・馬橋稲荷神社禰宜
昭和三十五年六月十七日生れ。

神青協遷宮啓蒙推進委員を兼任。
優柔不断な若者が多い中で、確固
たる自分の意見を持っている猛者。
ドライバーの飛距離は小泉副会長
に匹敵する程である。

庶務 石倉 義康



足立区・鷺神社禰宜

昭和三十五年四月二十日生れ。
今までの青年会活動に積極的に参
加して得た経験と才覚を生かし、
大いなる活躍が期待される。三十
才を過ぎて未だ独身。今期中のゴー
ルインを目指す。

会 計 内海 寿之



江東区・東大島神社禰宜
昭和三十五年十二月十四日生れ。

下賀茂神社に二年奉職の後現職に。
アイビールックのキマッタ姿に「山
口二世」の異名がついている。愛
妻家としても名高い。

広報部長 小俣 文弘



杉並区・荻窪八幡神社権禰宜
昭和二十八年二月二十日生れ。

きめこまやかに仕事をこなすが、
慣れない会報の発行に困惑。

神青協は大きな責務をもった全国同志の組織

——貴方も神道青年全国協議会の会員です——

神道青年全国協議会
前副会長 篠 直 嗣

神道青年全国協議会（神青協）についてこの二年間、不肖私は遷宮委員、会長指名理事に続き副会長の重責を与らせて頂き、会発展の為微力ながら務め、此の度人氣満了をむかえることができました。これは偏に鈴木前会長をはじめ諸先輩各位、会員皆々様の御支援御指導の賜物と深く感謝申し上げます。

この任期中、その活動諸事業を振り返りますに、何と申しまして一人の力より多くの力が如何に偉大かということを思い知ったのであります。「威力の発揮」とは個々がすすんで努力し協力の下実るもので、単体会活動も然り、無論各社に於ける任務もそれに通じるものがあると思ひます。

何れにしましても、今後も出来る限り単位会・全国それぞれの組織活動に協力し、斯界発展の為そして己の為にも励みたいものと考えております。「皆様と共に日本の為に努力致しましょう」と声

を大にして叫びたい気持ちで一杯です。任期中の御声援に対し厚くお礼申し上げます。

さて此の度、神青協の組織形・実情について、神青協会員でもある都神青会員各位に十分御理解御協力を頂く為に此処に記したく存じます。

昭和二十二、三年頃、神社界は神道指令・神社本庁の創立・境内地問題など、様々の問題をかかえる中、若い神職の中から同志的統合を求める動きが進んでいきました。その後昭和二十三年十二月十八日、神道青年会結成趣意書を地方の青年神道人グループに対し提示し、賛同を得るに致りました。斯くして昭和二十四年六月十六日、第一回総会を開催し「神道青年全国協議会」を結成したのであります。その総会宣言は次の通りです。

宣言文

狹下社会情勢の混沌たる時機に際し、全国神道青年の要望に応へ、今日代表有志の総会を開き宗教的

熱情を結集して、ここに神道青年全国協議会を結成し得たり。吾等世代を担う青年神道人は全国都道府県に神道青年団体を組織し、民俗精神の基盤たる神社振興の本義に徹して、変貌する時局に対処し永遠なる伝統の生命を旺にし、以て国家再興のため、強力なる運動を展開せんことを期す。右宣言す。

昭和二十四年六月十六日
神道青年全国協議会

また、この最中特に注目すべき「声明」が、同二十四年二月神社新報紙上に出されたのであります。声明

我々の意図する所は青年神職の労組的な会合ではなく、YMCAの如き一般青年に対する布教組織を

目途としている。その第一段階として世話役たる青年神職の組織化を図らんとするものである。また地方既存の組織を破壊して中央集権的団体を結成しようとするものでもない。

これは正に組織結成の重要な性格を示したものと云えるでしょう。

この様にして誕生した神青協は当初議長制を執っていましたが、昭和二十八年の総会に於いて会長制に組織変更され、現在に至って

おります。この間、斯界の問題は諸事に対しても陳情・通告・派遣等様々の活動を展開していったのです。この意義深い青年神職の組織である神青協も昨年めでたく創立四十周年を迎え、その歴史を振り返ると結成の意義の重大さがしみじみと伝わってくるやに感じます。

時を同じくして東京都神道青年会は、昭和二十四年東京都神道青年協議会として発足、神青協を解散し、「東京都神道青年会」を結成し、先輩各位が幾多の事業・問題に対処せられ、今日の都神青会に育て上げられたのです。この様に都神青会は、神青協の諸事業に対し常に陣頭に立って活動し、その功績は顕著なものがあります。

但、現在の青年会活動の状況を鑑みまするに、時代の変遷と共に活動内容は変化しつつも会発足当初の目的がすこしばかり薄らいでいる様にさえ感ずるのであります。確かに斯界発展の為に活動することは申すまでもないことではあります。内側に向けた活動を強力に推し進めてもよい時機ではないかということです。国際化が叫ばれている昨今、神社神道の明るい

将来の為に諸団体に諸国に青年としての主張を働きかけ、その実を得ることこそ現在求められている活動ではないでしょうか。青年会の集まりは、労組組合的なものではなく、また親睦会的なものでもない筈です。青年神職相互の研鑽は基より、卓越した斯道刷新の意見を全国より集約し、若者たる主張を堂々と世に示すことが先輩各位より受け継いできた現役組織員の最大の活動意識であると考えます。個々の事情が許す限りこの理想達成の為、共に努力致したいものです。

さて、現在の神青協の組織・活動について確認をしたいと思えます。現会則に挙げた設立目的は「全国各地の青年神職の団体の意見に基づき、各種の活動を通じて、日本の正しい発展と神社神道の興隆を期する」とあり、執行部内に総務・教化・広報・渉外の各常設委員会を設置して目的達成の為二年の任期をもって活動しております。また役員は、会長一名、副会長三名、地区理事（全国十地区…北海道・東北・東京・関東・東海・北陸・近畿・中国・四国・九州の各地区より選出）十名、会長指名理

事八名、監事三名と、そのほかに本庁派遣理事・参与各一名ずつの計二十七であります。特に今年度は、第三次遷宮のころを守り伝える委員会・事業委員会・神青協の将来を考へる委員会が設置され諸問題に対処する運びであります。が、今期都神青会から八名の役員・委員の出自がありますので、都の会員として共に協力をしつつ応援致したいものであります。

現下の会員の活動状況をみると、各単位の会活動では、しだいに減る傾向にある様で況しては全国組織の活動となると身近ではないという意識が先行して自然と無関心になりがちになり、参加も覚束無いのが傾向として伺えるようです。全国の各単体会員は神青協の会員でもありますので、意見の主張や積極的な活動をする権利をもっていることを認識して頂きたいのです。各位共、社務諸事情をおもちでしようが、斯会の将来を思えばこの大切な時を逃がす手はないと考えます。共に考え悩むということ、その分団結を図れることであり、共存共栄の道を強く押し開くことになると思えます。今後都に於いても全国に於いて

も事業・活動が展開されてまいりましようが、どうか神社界の為に延いては御自身の御奉務神社の為に共にも手をとり積極的に参加協力をしていこうではありませんか。冒頭申し上げた通り、明日の神社神道の発展と日本国の為に、私共若い力を出し合ひましよう。貴方も神道青年全国協議会の会員なのですから。

放火ゲリラ罹災神社

沼袋 水川神社で

上棟祭を斎行

小俣 文 弘



昨年三月十九日未明の、東京都内三神社同時ゲリラ行動による被災は、その被害の甚大さと共に我々を震撼させ、また憤懣の念を起こさせました。

現在、罹災されました神社に於きましては、着々とご復興の事業が進められている事と、存じますが、一日も早いご復興を、心より祈念する次第で御座います。

中野区沼袋鎮座水川神社（小俣茂宮司）は、昭和六十三年八月に、竣工を迎えたばかりの、新社殿でありましたが、昨年三月の事件で社殿と社殿に続く神札授与所とを、焼失いたしました。

復興事業が進み、平成二年七月十六日には地鎮祭が執り行われ、平成三年三月二十六日には、上棟祭が斎行されました。

当日は、前日から降り出した雨が心配されましたが、爽やかな天気となり、氏子崇敬者等、約二百人が参列して祭典が執り行われました。

祭典中には参列者全員により、曳綱之儀等が奉仕され、新社殿の無事な竣工が祈念されました。新社殿の竣工は本年七月下旬に執り行われる予定です。

お知らせ

○神道行法錬成研修会開催

日時 七月十日(水) 正午～
十一日(木) 午後一時頃
場所 青梅市御嶽山
麻知屋
会費 六千円(学生は五千円)

恒例の神道行法錬成研修会(禊)を本年も右記の通り開催致します。会員諸兄承知のごとく、この研修会は東京都神庁研修所との共催により、武州御嶽神社の御神域において毎年厳修されている、当会の伝統的行事です。

わずか二日間ではありますが、都会のお社を離れ御嶽山中の滝にうたれ、禊行に徹し身心ともに浄らかにすることは大変有意義なことと確心致します。これに参加しないと夏がやっつてこないという方も、未だ体験したことのない方も

奮って御参加下さい。(会員はもとより、学生、氏青有志の参加も歓迎します。)

尚、参加十回目の方には当会より記念の楯が、また参加神職には研修所より修了証が授与されます。

○第一回教養講座開催

日時 七月十九日(金)
午後四時

場所 明治神宮、神宮会館

講師 明治神宮総務部林苑課課長
内田方彬氏

明治神宮の杜の編成を中心に、緑の大切さ等、神社境内に相応しい樹木の育て方について、神宮の杜を散策しながら、お話しを伺います。この機会に、皆さんで考えてみたいお話しだと思われまはす。是非御参加下さい。

第六十一回 神宮式年遷宮

国民総奉賛・総参宮を



○家族懇親会

八月中旬従来より人気の高い納涼船で舟遊びを企画しております。真夏の一夜、ご家族お揃いで楽しいひとときをお過ごし下さい。詳細は後日お知らせ致します。

尚今年度はこの他に

○健康診断 十月上旬

○忘年会 十一月下旬

を企画しております。ぜひお気軽にこうした青年会催事にご参加下さい。会長以下役員楽しみにお待ちしております。

活動情況

○神青協定時総会開催

神道青年全国協議会は四月二十二日(月)十時より本社本庁において定時総会が行われました。全国から一五〇名、東京から十七名が出席し、地区理事に阿部会長が、指名理事には松本氏が選任されて吉川通泰新会長(広島県所属)の



もと新スタッフにより、御遷宮啓蒙運動の特別委員会など今期の方針が採択されました。引き続き緑の明治記念館で直会が行われ、こもごも将来の活躍を誓い合いました。

○相談役会開催

去る三月二十五日に、信濃町、陣屋に於いて、相談役会が開催され、神道青年会の諸先輩の方々の親睦を深めました。

平成三年五月三十日
東京都神道青年会
東京都港区元赤坂二―二―三
東京都神社庁内
電話 三四〇四―六五二五(代)